

当社の記事が『上毛新聞(2015.9.23)』に掲載されました。

群馬県みなかみ町にて、当社の技術を利用したバイオマス発電と燃料電池車(FCV)の燃料になる水素の生産を行う3メガワットの発電所を2017年から操業予定。

水素を生産する商用バイオマス発電所の建設は群馬県で初の試みとなります。

THE JOMO SHINBUN 2015年(平成27年)9月23日(水曜日) (日刊)

上毛新聞

9月23日

水曜日 赤口秋分

発行所(〒271-8600) 1-40-21
上毛新聞社
総合(027-254-9911)
編集(027-254-9933)
広告(027-254-9944)
販売(027-254-8131)
営業(027-254-9955)
©上毛新聞社 2015年

退職者の66% 精神疾患

89年度 対策充実も効果薄く

〇14年度に精神疾患で休職した職員は、前年比で約1割増の1,200人を超えた。退職者の66%が精神疾患で休職したことが、上毛新聞の調査で明らかになった。行政改革に伴う労働環境や市民の厳しさを加え、精神的な負担が増えている。退職者の66%が精神疾患で休職したことが、上毛新聞の調査で明らかになった。行政改革に伴う労働環境や市民の厳しさを加え、精神的な負担が増えている。退職者の66%が精神疾患で休職したことが、上毛新聞の調査で明らかになった。行政改革に伴う労働環境や市民の厳しさを加え、精神的な負担が増えている。

県と12市

14年度に職した職員は、前年比で約1割増の1,200人を超えた。退職者の66%が精神疾患で休職したことが、上毛新聞の調査で明らかになった。行政改革に伴う労働環境や市民の厳しさを加え、精神的な負担が増えている。退職者の66%が精神疾患で休職したことが、上毛新聞の調査で明らかになった。行政改革に伴う労働環境や市民の厳しさを加え、精神的な負担が増えている。

大名気分 能鑑賞 楽山園

室生流から駒形日夜、甘藷小唄の踊り。楽山園で行われ、かき火に盛り上がる。観客は、能の面白さを堪能している。観客は、能の面白さを堪能している。観客は、能の面白さを堪能している。

水素生産初の発電所

みなかみ 間伐材や端材活用

バイオマス発電と燃料電池車の燃料となる水素の生産を行う3メガワットの発電所を2017年から操業予定。水素を生産する商用バイオマス発電所の建設は群馬県で初の試みとなります。

燃料電池車普及へ協議会

県 先進地参考 促進策

燃料電池車(FCV)の普及を促進するため、県と関係機関で協議会を設立。燃料電池車(FCV)の普及を促進するため、県と関係機関で協議会を設立。

手術前後の 群大事故

群馬大学病院で手術前後に発生した事故。手術前後に発生した事故。手術前後に発生した事故。

きよの紙面

北方領土、8日に協議再開

北方領土問題に関する協議が8日に再開された。北方領土問題に関する協議が8日に再開された。

※記事詳細は別紙添付資料をご参照ください。

当社は“先進・独自の技術をもって新しい価値を創造し、豊かで快適な社会、環境の実現”に向けて積極的な活動を進めてまいります。

＜お問合せ先＞

◆ リリースに関するお問い合わせ先
 株式会社ジャパンプルーエナジー 事業企画推進部
 TEL:03-3234-1551 FAX:03-3239-3240 Email:soumu@jbec.jp

者総数26人)。前橋市9人(同14人)、渋川市7人(同10人)と続いた。

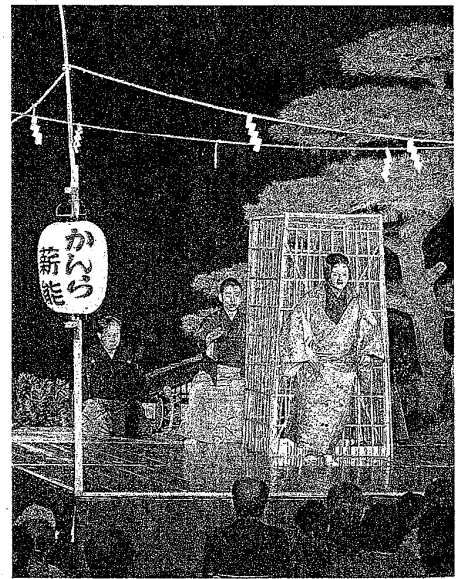
全職員に占める精神疾患の休職者の割合は県市平均で0.55%。市で最も高いのはみどり市の1.47%で、館林市0.96%、渋川市0.86%の順だった。

心の病が原因で休職する職員が後を絶たないため、各自治体は管理職を対象に

宝生流かんら薪能が22日夜、甘楽町小幡の国指定名勝「楽山園」で行われ、かがり火に照らされた舞台上で繰り広げられるみやびな舞を約350人が堪能した。写真。

仕舞や火入れに続き、狂言師の野村萬蔵さんが狂言「棒縛」で、主人の留守に盗み酒をする太郎冠者を演じ、笑いを誘った。最後は、辰口満次郎さんと宝生和英さんが鬼女伝説を基にした能「黒塚」を披露し観衆を魅了した。

「能の名手」とうたわれた小幡藩主の織田信雄にあやかり、大名庭園で能を楽しんでもらおうと町が企画し、毎年開いている。



腹腔鏡手術で亡くなった患者1人の遺族と、同手術の報告書をまとめた前回の調査委員のメンバー4人から事情を聴いたことを明らかにした。

遺族の聞き取りは、インフォームドコンセント(十分な説明と同意)の有無の確認が目的。手術前後に受けた説明と、その説明をどう受け止めたかを尋ねた。

水素生産初の発電所

みなかみ 来春着工

間伐材や端材活用

バイオマス発電と燃料電池車(FCV)の燃料になる水素の生産をみなかみ町で手掛ける「みなかみブルーエナジー」(同町下牧、岡田吉充社長)が今月設立された。2017年から3メガワットの発電所を操業する計画。水素を生産する商用バイオマス発電所の建設は県内で初めて。

林資源を活用する。間伐材や端材の年間使用量は2万トを超え、周辺地域の森林整備が促進されそうだ。発電所の敷地は約1畝で、来春に建設着工する。木質チップを蒸し焼きにしてガスを発生させ、ガスエンジンで電気と熱を、精製装置で水素を生み出す。発電量は一般家庭約3千世帯分。発電所の運営で約60人

の新規雇用が生まれる。総事業費は約30億円。バイオマス発電事業は、地元企業6社とアラント開発のジャパンブルーエナジー(JBEC、東京)が12年に設立したクリーンエネルギー沼田(沼田市鍛冶町、木内正和社長)が計画。発電事業会社として、地元企業とJBEC、東京都内の建設会社みなかみブルー

の燃料の木の成長の過程で二酸化炭素(CO2)を吸収するため、排出されるCO2と

吸収されるCO2が同量の「カーボンニュートラル」の発電とされる。水素を生産するバイオマス発電はJBECが実用化し、最初の発電所が石川県輪島市内で建設中という。

木質バイオマス発電は、燃料の木の成長の過程で二酸化炭素(CO2)を吸収するため、排出されるCO2と

燃料電池車普及へ協議会

県先進地参考に促進策

二酸化炭素(CO2)を排出しない燃料電池車(FCV)の普及に向け、県は本年度中にも県燃料電池自動車普及促進協議会を立ち上げる。大手自動車メーカーやエネルギー業者がメンバー

に加わり、先進地の動向を見ながら本県の普及促進策を検討する。FCVは水素と空気中の酸素で発電して走り、走行時に水しか排出しない「究極のエコカー」。トヨタ自

次世代自動車の普及を政策目標に掲げる県は「FCVが選択肢に加わるよう、本格的な普及期が到来する前に効果的な普及策を検討する(環境エネルギー課)としている。

県内の次世代自動車の登録台数は2014年度末で10万4432台。大半はハイブリッド車(HV)で、FCVは0台だった。

動車が昨年12月に市場投入した。燃料供給施設が少なく、生産台数も限られるため、全国的な普及には時間がかかる見通し。政府は東京、大阪など4大都市圏で燃料供給施設の整備を進める方針を示している。

た残り7人の報告を聞く。前回のメンバーからいた上で、男性を聴取する取りは年内に上田委員長つばいある。

県内各市の天気				
前橋	館林	富岡	沼田	草津
最高・最低 27 16	最高・最低 28 17	最高・最低 26 15	最高・最低 25 13	最高・最低 20 9
降水確率▶ 10%	10%	10%	10%	10%

きよしの紙面
北方領土、8日に協議再開